

この国の本当の実力

文 浜田和幸
(国際政治経済学者)

text by Dr. Kazuyuki Hamada

世界が注目する日本式教育とソフトパワー



わが国は、平均寿命に関しては、香港に抜かれたとはいえ、年々伸びる一方です。女性は87歳、男性も80歳を超えています。このような長寿大国日本を象徴するかのようには、96歳で大学を卒業した男性のニュースが話題になりました。これはとても日本的な現象といえるでしょう。世界を見渡しても、日本人ほど学ぶことに熱心な国民はいません。

カルチャーセンターなどに通う日本人の数は1300万人に達するほど。子供の頃からピアノ、書道、英会話、そろばん、水泳など、大人になってもカラオケ教室からヨガや編み物まで実に多様な学びの機会が提供されているのが日本の現状です。

古くは、江戸時代の寺子屋が思い起こされます。町人の子弟までもが読み書きや計算を勉強でき、学習する機会が保障されていたことは世界の歴史上、まれにみる出来事と言われています。階級意識の根深いヨーロッパと比べ、日本では武士であろうと町人であろうと机を並べて、同じように学問に励む風土がありました。

現在の義務教育制度の在り方については、賛否両論ありますが、わが国では多くの人々が大学まで進学しています。とはいえ残念ながら、「世界の大学ランキング」で見ると、日本の大学は国際的には評価が低く、最高

の東京大学でも21位、京都大学が26位という状況です。というのも日本ではエリート教育と対極にある「すべての国民に平等に教育を施す」という発想が受け入れられてきたからでしょう。

学校以外の場で、習い事やスキルアップを目指すという姿勢に関しては、日本人は間違いなく世界で断トツの存在です。予備校のような受験を目的とした学校は、韓国や中国にもありますが、これすら欧米や他のアジア地域にはありません。驚くべきことに、わが国の社会人を対象にした調査では、「社会人になってから66・2%が何らかの習い事・スキルアップに取り組んだ」と回答しています。特に人気が高いのは「英語、フィットネス、パソコン」の御三家(出典:2015年GABA「ビジネスパーソンの習い事・スキルアップに関する調査」)。

さて、世界の石油や天然ガスの宝庫といえど中東アラブ地域です。カタールなどは、日本と比べ国民一人当たりの所得は10倍以上というリッチなお国柄。言うまでもなくサウジアラビア、クウェート、アラブ首長国連邦など砂漠の民は化石燃料のおかげで、「教育費も医療費もタダ。電気、水道代も無料。結婚すれば、国から土地も家もプレゼントされる」という、この世の春を満喫しています。

強い限りです。なぜなら、日本との懸け橋になってくれるからです。日本への留学を希望するアラブ世界の若者も増え続けています。サウジアラビアからの国費留学生だけで、毎年5000人が日本の土を踏んでいるのです。

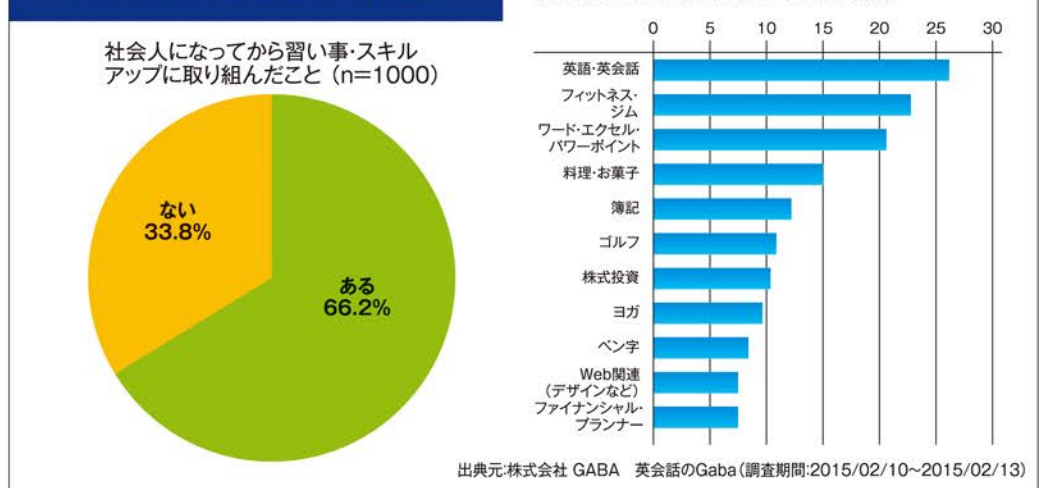
もう一つ、世界が注目しているのがNHKの教育番組です。幼児から大人まで、

多種多様な趣味や教養、そして放送大学のような高度な専門知識までほとんどタダ同然で学べる環境を整えている国は他にありません。

そこで彼らが注目したのが、公文式の学科と体操や音楽を組み合わせた総合的な学習メニューでした。アラブの世界に特化した公文式学習塾が盛況ぶりを見せています。中東のような資源の豊かな国で、日本式の教育スタイルが広がり始めていることは心

供から番組の制作、そして必要な人材育成に至るまで、日本の経験がベトナムの国づくりに生かされているのです。単に橋や道路を整備するだけでなく、受け入れ国の人材教育に寄与するという「ソフトパワー援助」として高く評価されています。世界の教育を縁の下で支えるのが日本式の真骨頂といえるでしょう。

ビジネスパーソンの習い事・スキルアップに関する調査



Profile
国際政治経済学者、北京交通大学客員教授、前参議院議員。
東京外国語大学中国科卒。米ジョージ・ワシントン大学政治学博士。
総務大臣政務官、外務大臣政務官など歴任。専門は「技術と社会の未来予測」「国家と個人の安全保障」「長寿企業の戦略経営」。
ベストセラー「ヘッジファンド」(文春新書)、「快人エジソン」(日本経済新聞社)、「武器としての超現代史」(学研プラス)など著書多数。